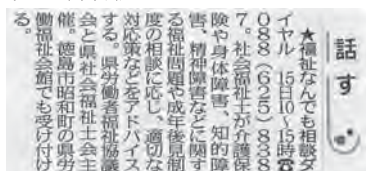


福祉相談の10年

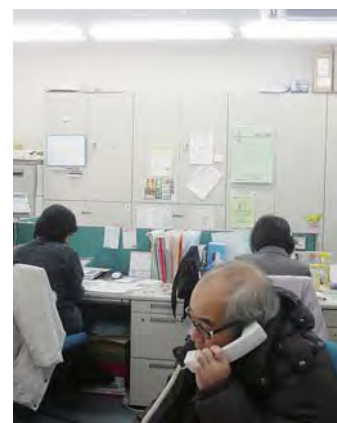
2001年5月19日徳島労福協と徳島県社会福祉士会が非営利の相談窓口として「福祉なんでも相談ダイヤル」を開設。毎月第三土曜日とその翌日の日曜日に、電話及び面接による相談を行う。

2006年から常設で相談を受け付ける。

徳島新聞 掲載



(平成)年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
高齢者福祉			24	16	8	14	7	21	19
介護保険	33	38	24	29	16	14	27	21	7
精神障害者福祉	20	23	33	19	37	28	18	54	71
身体障害者福祉	9	11	12	13	9	10	10	10	9
知的障害者福祉	3	3	6	2	1	1	5	8	1
資格・仕事	11	8	7	10	9	15	19	21	16
成年後見		4	1		4	2	3	7	6
生活保護	4	5	1	4	5	10	9	5	10
児童福祉	1	1	2	1	1	4	1	1	1
生活資金	1	1	2	2	3	4	1	2	2
その他	23	7	5	9	11	20	20	25	38
合計	105	101	117	105	104	122	120	175	180



福祉セミナー in とくしま

わが国は、世界に類のない超高齢社会を迎えます。

2000年4月より始まることとなった「介護保険」に向け、利用者本位のサービスが実現できるよう、情報交換と連帯の場として、『福祉セミナー in とくしま』を開催する事としました。

- ・2000年3月1日 ～介護保険時代における高齢者福祉の拡充に向けて～
4月1日 介護保険制度が始まる
- ・2001年4月28日 「介護保険の1年、ホントにできたか利用者中心」
- ・2002年5月18日 「非営利福祉相談の一年を考える」
- ・2003年5月24日 「非営利福祉相談の二年を考える」
- ・2007年1月27日 「非営利福祉と制度の『すき間』を考える」
- ・2008年2月16日 ―制度の「すき間」に対する支援のあり方を考える―
- ・2009年2月21日 ―これでいいのか介護保険―
- ・2010年2月20日 ―あなたの家族は大丈夫！「貧困」がもたらすもの―
- ・2011年2月19日 ―成年後見と介護保険の10年とこれから―



[今後の展望]

- ・社会福祉士の他、医師・弁護士・司法書士・精神保健福祉士など連携し、幅広い相談に対応できるようなネットワークを広げる。
- ・制度に関する資料・情報を整理し、適切な情報提供ができるようにする。
- ・福祉セミナー in とくしまを通じ、制度のすき間の問題を整理し、意見を発信していく。

障害者のための自動車運転免許取得特別講座

【これまでの実績】

2002年5月14日、知的障害者の生活域・職域拡大を目的とした県内初の自動車運転免許取得特別講座が、阿南市の「阿南ひまわり会館」で開講しました。知的障害者の保護者から、「子どもが通勤のために運転免許取得を希望しても、学科試験に合格できず断念している」という切実な悩みを受けたことが開設のきっかけでした。2008年度以降は県内4か所で継続開催しています

《各講座の受講者および合格者の推移》

講座名	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	合計
北部 (松茂町)	10 3 0	7 0 0	10 4 1	※独自講座 2 1	※独自講座 0 0		3 0 0	5 1 2	6 0 0	41 10 4
南部 (阿南市)	5 1 0	5 2 0				6 0 0	6 0 1	7 1 0	9 3 0	38 7 1
中部 (吉野川市)		13 2 1	5 0 3	4 2 0	7 5 0	4 1 0	4 5 0	7 2 0	6 0 1	50 17 5
徳島 (徳島市)			4 3 1	6 1 1	6 3 2	6 0 1	8 3 0	9 4 0	6 1 0	45 15 5
合計	15 4 0	25 4 1	19 7 5	10 5 2	13 8 2	16 1 1	21 8 1	28 8 2	27 4 1	174 49 15

※上段：受講者数、下段左：自動車運転免許取得者数、下段右：原付運転免許取得者数



2007.3.11 「5周年記念のつどい」

講師は、自動車教習所の退職教官に全国一般労働組合を通して依頼し、有償ボランティアで指導に当たっていただいています。会場は、知的障害者更生施設「野菊の里」や「シーズ」、障害者生活・就業支援センター「わーくわく」等に無償提供していただいています。また、講座では講師の学科指導を補助したり、自宅学習の課題の添削をしたりするボランティアを随時募集しており、退職者や学生など、幅広い層でのボランティア活動への参加を求めています。

開講当初、受講生は障害者支援センターや知的障害者更生施設の通所者が大半でしたが、2009年度から支援学校の進路指導担当教諭が運営委員会に参加するようになり、就職をめざす高校生の受講が増えてきました。

合格者は、2002年8月に南部講座の藤本勝也さんが自動車運転免許を取得したのを皮切りに、2011年1月末までに49名が自動車運転免許を、15名が原付運転免許を取得し、仕事や生活に役立てています。

2007年3月11日には、受講生、家族、講師、スタッフが一堂に会し、「5周年記念のつどい」を、また、2009年4月12日には「7周年記念のつどい」を開催し、安全教室と交流会を行いました。2011年5月22日には、ひとつの大きな節目として、「10周年記念のつどい」を開催する計画です。

《年間実施計画》

- ◎4月：運営委員会開催
- ◎5月：受講生、ボランティアスタッフ募集
- ◎6月：申込者面接
- ◎6月下旬：順次開講
- ◎9月～：講師の判断により随時教習所入校
- ◎1月下旬～2月上旬：順次閉講

《中部講座 開講式》



《北部講座》

《徳島講座 開講式》



《南部講座 開講式》

【これからの展望】

県内4か所で開催している現在、さらに県南部や県西部でも開催を望む声が上がっています。労福協としては、地域の人による地域のための講座開設もひとつの方策として提案し、ノウハウの提供や講師の紹介など、支援・連携の形を検討していきたいと考えています。そして、本事業をととして、障害者の生活の自立や就労を促進するとともに、障害者に対する社会の認識についても意識の変革を求めていきたいと思っています。



徳島新聞
2002.8.23 掲載

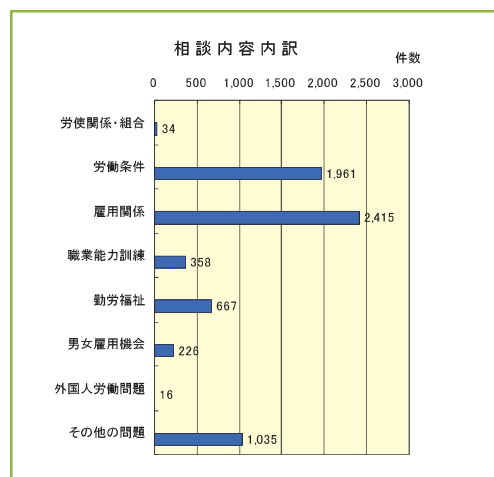
仕事なんでも相談室

【これまでの実績】

平成14年末に「仕事なんでも相談室」を開設し8年が経過致しました。創設以来多くの方々のお力添えにより県民の方々の相談窓口とし実績を上げることができました。

日本経済は戦後復興と共に高度経済を成し遂げ、国民生活は半世紀後には先進国入りの豊かな生活を送ることができるまでになりました。しかし右肩上がりの成長もバブル崩壊と共に去り、その後20年の間景気は低迷し混沌としたトンネルを走っております。20年の間には湾岸戦争の勃発・阪神淡路大震災・サリン事件・リーマンショック世界金融危機・円高・派遣切り・就職氷河期など私達を取り巻く環境は大きく変貌しました。

その様な背景もあり、相談窓口にも色々な悩みを抱えられた方々が救いを求め電話をされてきました。



徳島新聞 2003.12.13 掲載



徳島新聞 2008.6.19 掲載

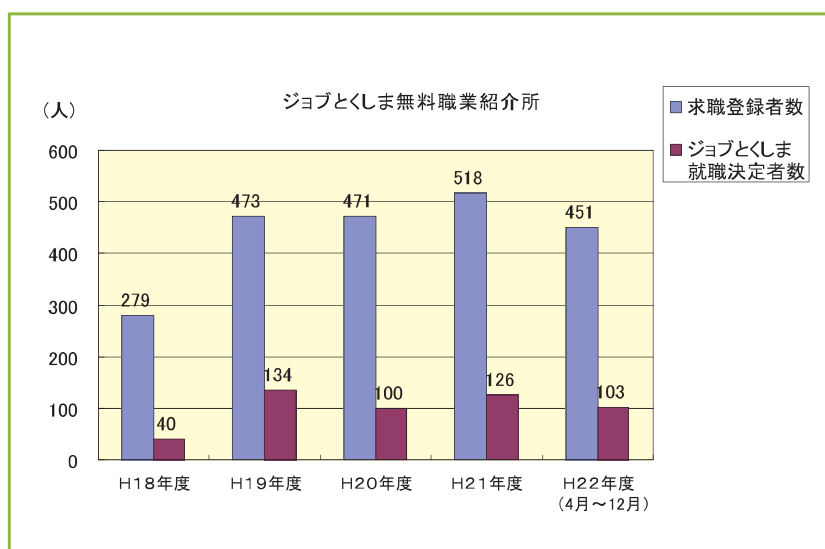
【これからの展望】

昨今、国内でも貧富の差・無縁社会・生活保護受給者の急増など言われています。景気回復にはまだ光は見えず多難を乗り越えていかなくてはならないと推測されます。その様な中、私どもは相談者の方々に何らかの助言と幾ばくかの励ましが出来ればと考えています。一層、県民の皆様に頼りにされる相談室をめざし、職員一同研鑽を深めて参ります。

ジョブとくしま無料職業紹介所

ジョブとくしま開所から7年が過ぎ、求職登録、求人、就職率も軒並み数字が伸びてきました。スタッフメンバーも来所される人達の思いを受け止めながら、「コミュニケーション」を取り、相手の希望する仕事の紹介をさせてもらっています。

仕事選びは人生選びのつもりで、これからも「相談」「紹介」業務にと頑張っていきたいと思っております。また最近の状況として、仕事探しにいられている中で、失業が続き生活が厳しく心が少し弱くなり、心のケアが必要だと感じることがあります。私達も求職者に寄り添えるための学習も必須に思い、資格を取得するべく頑張っていきたいと思っております。



就業援助相談室

徳島県就業援助相談室では、在宅ワーク（内職）の紹介をしています。問い合わせされる方は、以前は子育て中・家計の足しにしたいという主婦の方がほとんどだったのですが、長年の景気低迷や少子高齢化の影響で収入が下がったためでしょうか、最近では高齢者や自営業の方が増えてきています。

これからの課題としては、少しでも多くの求職者の方のために幅広くお仕事を紹介してゆきたいと考えています。



ジョブサポート事業部スタッフ

とくしま就業支援センター



とくしま就業支援センターが、発足したのは13年前。当時、今後やってくる高齢化社会に向けてホームヘルパー3級講座(修了者数31名)を開講したことが始まりでした。

それから今日にわたり、介護を中心にIT系・医療事務系・簿記等、講座の種類も時代背景の移り変わりとともに増え、講師の皆様を始めとして、そこに携わってくださった多くの方々のお力をお借りしながら、平成22年度には、国や徳島県などの委託事業、自主事業を合わせ、27講座約600名の受講生を受け入れて職業訓練コース・スキルアップコースを開講するまでとなりました。

現在、近年の厳しい経済・雇用情勢は、徳島県下の新卒者など若者の就職や、失業者、非正規労働者の増加等、大きな影響を及ぼしています。また、その延長線上は「格差・貧困・無縁社会」といった深刻な社会現象を生み出す可能性が大きいと言えます。

このような現状において「私たちに何ができるのか?」、「就職をするということについて、必要性が最も高く、求められているものは何なのか?」を常に考えながら、「はたらく」をテーマに、多様な求職者の方々をサポートするためのスキルアップ講座や職業訓練コースを企画・運営し、一人でも多くの方々の何らかの支えとなるように、スタッフ一同、精一杯の支援をしてまいります。



ジョブサポート事業部スタッフ

【講座～ Classroom Scene2010 ～】

コミュニケーションを大切に…



PC 講座



介護講座



ガイドヘルパー



医療・介護事務講座

【講師～ Teacher Scene2010 ～】

心に語りかける講義を大切に…

社会福祉士として幅広く活躍され、大学などで教鞭を執っていらっしゃる大下先生の授業は、介護の現在の状況や介護を必要とする方々の抱えている問題をリアルタイムで伝え、学科の講座でありながらも受講生を惹きつけてくださいます。

大下 直樹先生

ご自身の経験談から始まる先生の講座は、とてもソフトで飾らない語り口調ですが、内容は、力強く、説得力があり、「本当のバリアフリー」とは何なのか。介護にあたりこれからどういった取り組みが必要なのかなど、たくさんの事をいろいろと考えるキッカケを与えてくださいます。

天野 善仁先生

慈愛あふれる授業は笠井先生のお人柄がとても表れています。優しい口調の中にも介護に対する真摯な姿勢が感じられ、労力を惜みず、心のある介護について全身で受講生に伝えようとする先生の情熱は、受講生に必ず伝わっているものと確信します。

笠井 恵子先生

ひとりでも落ちこぼれないように、いつも受講生に気を配り、必要な箇所を的確にわかりやすく教えてください。講座修了アンケート時に受講生から多数の賞賛と感謝の言葉をいただきます。

北村 則子先生

医療事務・調剤事務・介護事務を担当して下さっている先生は認定試験の合格を目指して、丁寧に時に厳しさを持って指導をしてください。その甲斐あって全国平均50%という合格率である認定試験に受講者全員合格という快挙をなすことができました。

長瀬 由美先生

受講生の声…

H22 年度講座修了アンケートより

◎この機会をいただけたことにとても感謝しています。介護職に対する見方、認知症に対しての見方が大きく変わりました。今後は介護職に就き頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

介護サービス科B1修了生

◎施設実習は初めてのことで、緊張しました。講習と違い、本当の利用者さん相手なので、気を遣ったし、コミュニケーションも難しかったです。スタッフにも色々いて、お手本にしたい人やそうでない人もいて考えさせられました。

緊急人材育成支援事業：介護職員基礎研修コース修了生

◎テキストや教室(パソコンも含める)や講師も熱心に教えていただき、大変よかった。目標の資格も全部取ることができました。

緊急人材育成支援事業：IT基礎演習コース修了生